

自立活動 分野別 指導プログラム （分野 D 障害認識）

分野の目的		自分の聞こえの状態を正しく認識させる。 自分に必要な補聴器/人工内耳の使い方や仕組みを知り、管理ができるようにする。	
指導上の留意点		・子供の発達段階、聴力レベル、聴覚活用の状態、障害認識の段階などに合わせて指導する。	
項目 学年		聴覚障害について知る	補聴器・人工内耳の装用と管理
保・幼部	保護者支援	＜よりよい母子関係を築くために＞ ○相談に訪れた親子を明るくあたたかく迎える。 ○子供が喜ぶ遊びやかかわりを見出し、楽しい様子を繰り返し見せる。 ○ゆっくり話を聴くことで不安や悩みを知り、軽減できるよう話し合う。 ○将来への見通しや可能性を示す。 ○親子のスキンシップやかかわりが楽しめるように実際にモデルを示し、かかわってもらう。 ○子供らしさや成長と一緒に喜ぶ。 ○子供の発信の受け止め方、母親の気持ちや意図の伝え方を具体的に示す。 ○生活習慣が身に付き、生活リズムが整うよう、見本を見せたり工夫を伝えたりする。 ○聴覚障害について理解を深め、家族・親戚、交流先、地域の理解を得ようとするように支える。	
	保護者研修	・聴覚障害の種類 ・きこえのしくみ ・聴覚の発達 ・オーディオグラムの見方 ・コミュニケーションの方法 ・母子間のコミュニケーションの取り方 ・乳幼児の子育てとあそび、しつけ ・父親、家族の参加、交流 ・乳幼児の発達 ・家庭における補聴 ・聴覚活用の促し方 ・ことばを広げるツール（絵本、絵日記、絵カードなど）	・補聴器、人工内耳とは（聞こえ方・限界） ・補聴器、人工内耳の管理
小学部	1・2年	・自分は、耳が聞こえにくいから補聴器や人工内耳をつけるということを知る。 ・世の中には、聞こえる人と聞こえない人がおり、自分や身近な人はどちらであるかをはっきりと知る。 ・手話・指文字を使うと、コミュニケーションがスムーズにとれることを知る。 ・音と聞こえについて知る。 （音の大きさと高さ・dB・聴力・オーディオグラムなど）	・補聴器/人工内耳について知る。 （部位の名称・役割など） ・補聴器/人工内耳の保管の仕方がわかる。 （水泳、就寝時、雨天時の保管） ・補聴器/人工内耳の点検やイヤモールドの手入れが自分でできる。（電池チェッカー、エアブロー、コイルチェッカー） ・友達が補聴器と人工内耳のどちらを使っているかがわかる。 ・場に応じた補聴器/人工内耳の使い方を知る。 （騒がしい場所・静かな場所）
	3・4年	・身の回りの生活音や環境音について知る。 ・他の障害について知る。 ・聴力検査室の構造や機器の機能について知る。 ・聴力測定の方法について知る。 （裸耳と装用の違い）	・補聴器と人工内耳の違いについて知る。（仕組み・聞こえ） ・補聴器、人工内耳装用児がお互いに対して気をつけることを知る。 ・補聴援助システムについて知る。
	5・6年	・耳の仕組み（聞こえの仕組み）について知る。 ・耳の病気について知る。（中耳炎・外耳炎） ・自立活動について知る。	・補聴援助システムを使う時、自分でプログラムの切り替えができる。
中学部	1年	・聴力測定（標準・装用・語音）やオーディオグラムの見方について知る。	・補聴器/人工内耳について、詳しく知る。（役割・注意点など） ・自分の補聴器/人工内耳のメーカーや機種や機能を言える。 （ボリューム・プログラムも）
	2年	・自分や友達の聞こえの状況を把握し、聴覚活用の意味・目的を知る。	・人工内耳の手術や補聴器の交付・イヤモールドの作り替えの年月日の記録などを問われたら答えられる。 ・マッピング等を行う病院等が言える。
	3年	・耳に関係のある病気について知る。 （耳垢栓塞・耳下腺炎/おたふく風邪・内耳炎）	・かかりつけの病院（耳鼻科）や補聴器店が言える。 ・補聴器/人工内耳の日常的な管理や季節に応じた管理が自分でできる。（ハウリングや結露などのトラブル対処など） ・補聴器/人工内耳のプログラムを切り替え、ループ式補聴援助システムや赤外線補聴援助システムを利用することができる。
高等部	1年	・自分の聴覚の実態について知る。正しく認識できる。	・補聴器/人工内耳の日常的な管理や季節に応じた管理が自分でできる。
	2年	（オーディオグラムを見て、自分の聴力を言葉で説明できる。）	・補聴器/人工内耳の様々な機能について知る。（指向性・騒音抑制等）
	3年 専攻科	・自分にとって、より望ましい補聴機器や情報保障について知る。	・自分の聴力や場面に応じて、補聴器/人工内耳のプログラムの切り替えや、様々な補聴援助機器の選択ができる。 （ループシステム、赤外線システム、FMシステム）

分野の目的		福祉制度について基本的な知識を身につけさせる。 聞こえにくいことを肯定的に受け止め、自分に自信を持って、主体的に行動できる力を育てる。	
指導上の留意点		・子供の発達段階、聴力レベル、聴覚活用の状態、障害認識の段階などに合わせて指導する。	
項目 学年		福祉制度	聴障者としての生き方について考える
保・幼部	保護者支援	＜自信を持って子育てをするために＞ ・両親の価値観や考え方を理解し受け入れ、尊重する。 ・母親の個性や長所をしり、努力や工夫を認める。 ・家族や背景などの状況を理解し、今できることを具体的に助言する。 ・子供の発達やことばの獲得の筋道と現在の課題、取り組みを知らせることで不安が和らぐようにする。 ・支えあう親同士の関係づくりを工夫する。 ・子供の将来像を描きながら、今必要なことに取り組めるように助言する。 ・幼稚部終了後の進路について考えるための、子供の状況、見通し、考慮すべきことの情報を提供し、話し合う。	
	保護者研修	・福祉の手続き ・教育、福祉、医療 ・聴覚以外の障害に対する連携機関	・本校保育相談部、幼稚部、小学部の見学（希望により中高も） ・卒業生の体験談 ・卒業生保護者の体験談 ・幼稚部5歳児の保護者の体験談 ・進路の選択肢と状況 ・親の会、手話サークルなどの関係機関について ・同じ聴覚障害のある子をもつ保護者同士の出会い
小学部	1・2年	・身体障害者手帳を携帯して必要な時に提示できる。	・聞こえないことによる危険を知り、安全な行動について考える。
	3・4年	・電話お願い手帳の使い方を知り、日常生活の中で使うことができる。 ・身近な福祉機器（お知らせランプなどの日常生活器機器）について知る。	・交通機関や公共施設での音のマナーについて知る。 ・自己紹介ができる。（生い立ちや親の思いなどを含む） ・聞こえなくて困ることについて話し合い、対処法を考える。 ・自分に必要な支援を、聞こえる人に伝えることができる。
	5・6年	・身体障害者手帳の意味と書かれていることがわかる。 ・障害者割引について知り、公共の交通機関を利用する時に活用できる。 ・福祉サービスについて知る。 ・災害時の対応（福祉避難所、FAX119）について知る。 ・情報保障（手話通訳・ノートテイク・FM補聴システム・UDトーク）について知る。	・自力通学中のトラブルに対処できる。 ・ひとりで買い物ができる。 ・手話や指文字の起源を知る。 ・聾学校の歴史や、補聴器の歴史を知る。 ・障害を持つ偉人の生き方を学び、聞こえにくい・聞こえない自分を大切に思い、前向きに活動しようとする。 ・重複する障害（視覚・知的・肢体不自由・発達障害など）について知る。 ・さまざまな聾者（手話のみで話す・口話をつけるなど）の在り方を知る。 ・自分に合った情報保障を知る。 ・小学校と聾学校の違いについて考える。 ・成人聴覚障害者の話を聞くことで、卒業した後の自分について想像したり話し合ったりできる。 [全学年]学校間交流・通級児童（同障者）との交流を通して、視野や活動の幅を広げる。
中学部	1年	・福祉制度の既知事項の調査。	・聞こえなくて困ることやその対処法について話し合う。（家族との会話・病院での受診のしかた・公共交通機関の利用のしかた・字幕放送・筆談・読話・緊急時の対処法など）
	2年	・補聴器等の福祉申請の手続きについて知る。 ・運賃、公共料金などの割引について知り、正しく利用できる。	・社会生活の中での音のマナーや聾者の文化について知る。 ・聾者や聾学校、聾教育の歴史を学ぶ。（昔～現在の聾者の生活の様子・本校の歴史・日本の聾学校、世界の聾学校）
	3年	・日常生活用具について知る。（振動式腕時計・お知らせランプ等）	・歴史上の聾者たちの様々な先駆的努力や苦勞から、今の自分たちの状況を客観的に見ることが出来る。 ・社会で活躍する聴覚障害者について知り、自分たちが就きたい職業について話し合う。（野球選手・俳優・弁護士・エンジニア・学者・薬剤師など）欠格条項について学ぶ。 ・聾学校の先輩や成人聴覚障害者の話を聞き、将来について考える。

高 等 部	1 年	・福祉制度の既知事項の調査。 ・身体障害者手帳について知る。	・不便に気づき、自分で対処する方法を考える。 （病院での受診のしかた・緊急時の対処法など）
	2 年	・聴力と身体障害者手帳等級・障害種別と福祉制度の関係について知る。 ・聴覚障害者情報センターなどについて知る。 ・日常生活の援助について知る。	・様々な障害について知り、ユニバーサル社会について考える。 ・卒業生や成人聴覚障害者の進路、生き方の話を聞き、将来について考える。
	3 年	・補装具（補聴器等）の申請が自分で行えるように、その方法について知る。	・社会に出るにあたり、聴覚障害者が誤解されやすい事例を知り、自分の課題に気付く。
	専攻科	・交通、通信、施設使用等の減免、割引について知る。 ・税の減免、障害基礎年金等の制度について知る。 ・労働者や障害者に関わる諸法律について知る。 （職業相談などの仕方） ・手話通訳派遣制度の利用の仕方について知る。	・聾者や聾学校、聾教育の歴史を学ぶ。（昔～現在の聾者の生活の様子・本校の歴史・日本で初めての聾学校、世界の聾学校・聾教育の歴史）聾者や聾教育の歴史を知り、今の自分たちの状況を客観的に見ることが出来る。 ・欠格条項と障害者運動の歴史を学ぶ。障害者の権利や運動について、自分と結びつけて考えることができる。 ・身体障害者の社会参加（スポーツや文化的活動）について知り、自分の生き方を考える。